

平成24年度 第3回金沢市入札制度評価委員会の審議概要

開催日及び場所	平成24年12月25日(火) 金沢市役所 第3委員会室		
委員 (委員数5名) (出席数5名)	委員長 坂井 美紀夫(弁護士) 委員 後藤 正美(金沢工業大学教授) 委員 米田 満(公認会計士) 委員 松本 樹典(金沢大学教授) 委員 舟橋 秀明(金沢大学准教授)		
次第	1 開会 2 審議 (1) 審議案件 ア 工事等に係る入札・契約手続きの運用状況等について (ア) 平成24年4月1日から平成24年11月30日までの本市発注工事及び工事関連委託業務の結果について (イ) 入札参加資格停止の運用状況及び談合情報への対応状況について イ 補正予算に係る小学校耐震補強工事への対応について ウ 委員があらかじめ抽出した案件に係る業者選考等の経緯について (平成24年7月1日から平成24年9月30日) エ その他 3 閉会		
抽出案件	8件		
工事	制約付き一般競争入札	4件	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度 今町ほか1町地内(17工区)管渠築造工事 次期廃棄物埋立場外周道路周辺造成工事(東工区) 城北市民テニスコート人工芝張替及び通路工事 平成24年度金沢市同報防災無線デジタル化整備工事(城南・中央ブロック)
	指名競争入札		該当なし
	随意契約	1件	平成24年度 臨海水質管理センター非常用自家発電設備原動機更新工事
委託	制約付き一般競争入札	1件	金沢城北市民運動公園 基本設計・基盤実施設計業務委託
	指名競争入札	1件	平成24年度 米泉2号雨水幹線実施設計業務委託(補助)
	随意契約		金沢城北市民運動公園プール施設建設工事基本設計業務委託
審議内容	別紙のとおり		
委員会による報告 又は意見の具申	平成24年度第2四半期の発注工事に係る入札・契約手続きの運用については、概ね適正に行われていると判断する。 落札制限拡大の検討については、別紙のとおりとする。		

(お問合せ) 〒920-8577 金沢市広坂1-1-1
 金沢市総務局監理課
 電話:076-220-2101

別 紙

総 括

各委員からの意見は、概ね以下のとおりであった。

- 1 工事及び委託業務の選考経過について、一部業種で最低制限価格と僅差で円単位の争いが見られるものの、適正に執行されていることを確認した。
- 2 今年度執行された落札制限についても特段の問題は見受けられなかったが、なお受注に偏りが見られることから、今後落札制限の拡大を検討すべきである。
特に、補正予算に係る小学校耐震補強工事が今年度中に多数発注されるが、すべて夏休み期間中に施工する同種工事のため、同一事業者が多くの工事を落札することは受注機会だけでなく、履行確保、工期遵守の点からも問題があり、落札制限の拡大を試行すべきである。
なお、意見の詳細は次のとおり。

質 疑	回 答 ・ 意 見
<p>1 工事等に係る入札・契約手続きの運用状況等について</p> <p>○ 平成24年度に入ってから、最低制限価格での落札が増加しているとのことだが、工物品質の低下が見られないか。</p> <p>○ どの程度最低制限価格に近似した金額で応札しているのか、乖離度を示すデータはないのか。</p> <p>2 補正予算に係る小学校耐震補強工事への対応について</p> <p>○ 今年度中に発注される小学校耐震補強工事について、金額基準を下げ落札制限を拡大したいとのことだが、その根拠は何か。</p> <p>○ 落札制限をかけすぎること、入札参加者が減り、競争性が阻害されるといった弊害が生じないのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度最低制限価格で落札された工事の成績評点を分析してみたが、それ以外の工事の成績評点の平均と比べて同じ水準であり、特段工物品質の低下は見られない。 ・ 次回の委員会で、最低制限価格に張り付いている状況を分析した資料を提示し、議論をお願いしたいと考えている。 ・ 1円、2円の応札額の差で、実際に施工する工事内容に違いが生じるかは疑問である。 ・ 円単位での入札が頻発している状況で、数円差の違いに意味が見出せないのであれば、最低制限価格を円単位ではなく、百円単位や千円単位で丸めるということも考えられるのではないか。 ・ 落札制限の金額基準は全国的に見ても高い設定になっており、受注に偏りも見られるので、落札制限の拡大については、次回金額基準も含めて改めて検討をお願いするつもりである。 今回は、小学校の耐震補強工事という夏休み期間中に、同一工種の工事が多数発注されるという特殊性があり、技術者の配置の問題や工期遵守の観点からの配慮が必要なことから、落札制限拡大の試行という形で実施したい。 ・ 落札制限をかけすぎると、競争性が確保されないおそれがある。このため、今回の小学校耐震補強工事の全てを一括して落札制限をかけることはせず、3つ程度のグループに分け、競争性に配慮した上で落札制限を試行したい。 ・ 事業者側のニーズから受注機会の確保を図ることも大事であるが、競争性や工物品質確保とのバランスをよく考えて制度設計をしてほしい。 ・ 今回は、夏休み期間に施工が集中する工事が何件も発注されるという特殊性があることから、試みとして落札制限を拡大して実施することに問題はないと思われる。 ただ、落札制限の金額基準を今後どうするかという一般的な議論は、別に必要であり、次回の委員会で今回の試行結果もふまえて、改めて検討したい。

質 疑	回 答 ・ 意 見
3 委員があらかじめ抽出した案件に係る業者選考等の経緯について	
<p>平成24年度 今町ほか1町地内（17工区）管渠築造工事</p>	
<p>○ 2,500万円の工事で最低制限価格と数十円差の円単位での応札により落札しており、入札制度のあるべき姿として疑問がある。</p>	<p>・ 最低制限価格に近づけようとして円単位で応札するケースが増えており、また、積算方法に精通した者のみが落札することについては、以前からの検討課題であり、継続して推移を見守り、分析して行くつもりである。</p>
<p>次期廃棄物埋立場外周道路周辺造成工事（東工区）</p>	
<p>○ 本件は、議会案件、総合評価案件であり、かつ、落札制限の対象でもあった案件であるが、競争性の確保も含め、問題はなかったか。</p>	<p>・ 落札制限により1者が無効になったが、それ以外で7者の入札参加があり、競争性が確保されていた。また、無効になった1者を除けば、技術評価点が最高点でかつ最低価格者が落札しているの、適切であったと考えている。</p>
<p>城北市民テニスコート人工芝張替及び通路工事</p>	
<p>○ 入札金額が8,500万円程度のグループと9,500万円程度のグループの2つに分かれているが、その理由は。</p>	<p>・ 落札するために最低制限価格を狙って入札したグループと自社施工可能額を入札したグループの2つに分かれたと思われる。最低制限価格を狙って入札したグループも受注確保を優先しているが、自社努力で利益の確保はできていると思われる。</p>
<p>平成24年度金沢市同報防災無線デジタル化整備工事（城南・中央ブロック）</p>	
<p>○ 市内を5つのブロックに分けて発注し、落札制限をかけた案件であるが、入札参加が4者しかなく、競争性を担保できるのか。</p>	<p>・ 5ブロックに分けた工事のうち、本件の城南・中央ブロックは親局である特殊性から60MHzの実験局の免許を条件とし、6者が参加可能と想定していたが、結果として4者となった。それ以外の4ブロックの工事については、上記の条件がないため、本件より多くの参加が可能である。</p>
<p>平成24年度 臨海水質管理センター非常用自家発電設備原動機更新工事</p>	
<p>○ 随意契約の理由は何か。</p>	<p>・ 本工事は、発電機や既設原動機の補機類、諸設備をそのまま使用し、タービンエンジン本体のみを取り替える工事であるため、自家発電設備の性能を確保できるのはこの設備を設計・製作・施工した事業者だけであると判断し、随意契約を行った。</p>
<p>金沢城北市民運動公園 基本設計・基盤実施設計業務委託</p>	
<p>○ 落札率が高いように思われるが、業務委託の落札率の推移はどのようになっているか。</p>	<p>・ 今年度から、業務委託について予定価格を事前公表し、最低制限価格を個別設定方式に変更したところであり、落札率が、今後、どのように推移するかを注視していきたい。</p>
<p>平成24年度 米泉2号雨水幹線実施設計業務委託（補助）</p>	
<p>○ 指名業者数が5者と少ないのはなぜか。</p>	<p>・ JR線路施設内での作業を伴うため、JR側から日本鉄道施設協会「工事管理者」の配置の条件指定があり、市内に営業所を有する者まで範囲を拡大しても、この資格者を配置できる事業者が少なかったためである。</p>
<p>金沢城北市民運動公園 プール施設建設工事基本設計業務委託</p>	
<p>○ 県外業者が選定されているが、地元業者は参加できなかったのか。</p>	<p>・ 参加資格条件は、地元業者にも参加できるように配慮したが、県内に大規模プール施設の設計実績のある事業者がいなかったことから、参加しにくかったのではないかと推察される。</p>